

創刊65th 地域とともに 埼玉新聞 創刊65周年記念事業

川越市のウニクス南古谷ショッピングセンター ユナイテッド・シネマウニクス南古谷

名画上映会「復活!シアターホームラン」

入場料金 全作品1本 **¥500均一**



あの名画、話題作がワンコインで観れる!

今日から 浅丘ルリ子さん特集

川越市泉町にあるショッピングセンター! ウニクス南古谷内にあるシネコン、ユナイテッド・シネマ・ウニクス南古谷の名画上映会「復活!ホームランシアター」2月作品は、名女優・浅丘ルリ子特集。昭和30〜40年代に、日活の2大看板スター、石原裕次郎、小林旭の共演女優として、裕次郎と37本、旭と42本の作品で共演したルリ子。今回は、その中でも特に話題となりヒットした「憎いあんちくしょう」(1962年、共演・裕次郎) 2月6日〜12日上映。「南国土佐を後にして」(59年、共演・旭) 13日〜19日上映。「赤いハンカチ」(64年、共演・裕次郎) 20日〜26日上映。ルリ子も、裕次郎も、旭もまさに青春のシンボル。昭和30〜40年代、3人が主演した映画館はいずれも観客であふれ、主題歌は今も歌い継がれている。彼らと青春を共有した世代にとって、懐かしく若き日を思い出す作品である。

(脇田巧彦)



前回の森繁久彌特集に訪れた67歳の男性映画ファンは、浅丘ルリ子さんは、私たちが中学、高校時代のアイドルスター。裕次郎や旭、そして寅さんのマドンナとして大活躍でした。彼女は男性スターを引き立たせてくれる貴重な女優さん。今からルリ子特集が楽しみです」と興奮気味に話してくれた。15歳でデビュー以来、数多くのヒット映画に出演。多くのビッグネームとの共演歴を持つ。今回は昭和30年代の石原裕次郎との共演作でルリ子が最も好きな作品「憎いあんちくしょう」と、歌謡アクション映画の最高傑作「赤いハンカチ」そして、小林旭との共演作「南国土佐を後にして」の3作品を上映。ワンコイン(500円)で楽しめる浅丘ルリ子特集にご期待を。

南国土佐を後にして

2月13日(土)~19日(金) 12:30より上映



1959年(昭和34年)日活作品。監督、脚本・斎藤武市。原作、脚本・川内康範。音楽・小杉太一郎。出演=小林旭、浅丘ルリ子、ヘギー葉山、南田洋子、中原早苗、二本柳寛、内田良平、西村晃。◆物語:ヘギー葉山が歌いヒットした同名曲を映画化した歌謡アクション。刑務所を出所したヤクザの原田(小林旭)は、故郷の高知へ帰り、かつての恋人・晴江(浅丘ルリ子)と堅気として生きようとする。しかし、晴江に横恋慕する地元ヤクザのボスにことごとく痛めつけられ、再びやくざ世界に。この作品は予期せぬ記録的ヒットで、マイトガイ旭が裕次郎と並ぶスターの地位を確保。渡り鳥シリーズの原型となった。

赤いハンカチ

2月20日(土)~26日(金) 12:30より上映



1964年(昭和39年)日活作品。監督、脚本・舛田利雄。撮影・間宮義雄。出演=石原裕次郎、浅丘ルリ子、二谷英明、金子信雄、芦田伸介。◆物語:日活ムードアクション最盛期の傑作。裕次郎・ルリ子共演作では、歌も大ヒットした「夜霧よ今夜もありがとう」「夕陽の丘」があるが、この作品は歌謡ものでは代表的1本。横浜麻葉ルートを追っていた刑事・三上(石原裕次郎)は、参考人の男を殺してしまう。浅丘ルリ子は三上が殺した男の娘という設定。ルリ子は下町の娘として登場するが、ラストは殺人者に。二人のベッドシーンが話題になった。

憎いあんちくしょう

2月6日(土)~12日(金) 12:30より上映

1962年(昭和37年)日活作品。監督・蔵原惟繕。脚本・山田信夫。音楽・黛敏郎。出演=石原裕次郎、浅丘ルリ子、芦川いづみ、小池朝雄、長門裕之、川地民夫。◆物語:DJ北大作(石原裕次郎)はマスコミの売れっ子だ。彼にはマネージャー兼恋人の典子(浅丘ルリ子)がいる。このところ多忙から二人の仲は倦怠気味。そこへ、ジープを九州まで運ぶという仕事に大作が共感して運転手をかっ出る。愛が形骸化した男女が、日本縦断の旅に出ることで、愛を取り戻すというストーリー。マスコミに生きる男女のドラマ。ルリ子は、裕次郎との共演作で「一番、思い出に残っている作品」としている。



ユナイテッド・シネマウニクス南古谷
〒350-0026 川越市泉町1番地1
ウニクス南古谷2階
24時間テープ案内 049(230)2227